

春風秋霜 1月号

令和5年1月20日
島田市教育委員会だより
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 令和5年の最初は、元旦マラソン

令和5年を迎えました。今年は、ウサギ年ですから、ぴよんぴよんと跳ねて遠くに行ってみたり、体を動かして元気に健康で過ごせたりしたら良いと思います。

本年も、よろしくお願ひいたします。令和5年1月1日に、教育委員会主催事業として、元旦マラソンを実施しました。私は、元旦マラソンを河川敷でやっていることは知っていたのですが、今まで参加したことがなく、この時間は、例年、神社にお参りに行っていましたが。スポーツ振興課の職員が中心になって、陸協の皆さんや関係者の皆さんにご協力をいただき実施しているのですが、元旦の寒い朝にもかかわらず、1775名の方が参加してくれました。2km、5km、10kmと距離を分けて実施しましたが、家族やグループで参加する方も多く、小さな子供さんがお父さんとお母さんと一緒に走るというようなほほえましい姿を見ることもできました。

私にとっては初めての元旦マラソンでしたが、お天気にも恵まれ実施することができました。島田市では、「市民ひとりスポーツ」を掲げていますが、楽しみながら活動している皆さんが多いことに感謝申し上げます。

2 はたちの集いを開催して

昭和23年に、「大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を励ます日」として、成人の日（1月15日）が制定されました。今回の民法改正により18歳で成人となるという変更がなされた際、全国高等学校PTA連合会の意見として「20歳で実施が良い。18歳の場合、大学受験と重なり参加者が減り、進学費用がかかり家計の負担が大きく晴れ着など十分な準備ができない。」や、新成人のつどい実行委員会のOGOB会の方からは「どちらでもよいが、20歳の場合、一度出身地を出た人が帰省する機会となり、同窓生との交流からUターンに結びつくことがあるかもしれない。18歳だと、受験等や経済的な負担の問題がある。」というような意見が出されたそうです。

このような経過の中で、島田市では民法改正後も20歳を対象として「はたちの集い」を実施することに決まりました。



<当日のはたちの集い 参加者の様子>

多くの来賓の皆様をお迎えし、「はたちの集い」を開催することができました。昨年度は、コロナ感染症対策として、前半と後半の2部に分かれて成人式を実施しましたが、本年度は、市内のはたちの集い参加対象者1018名に招待状を出し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で実施することとなりました。

式の中では、染谷市長から成人に向けてお祝いの言葉が述べられました。また出席者を代表して久保田さんと芦沢さんが「はたちの誓い」を宣言し、今まで出会った友達や先生や家族への感謝の気持ち、これからの夢や希望が述べられました。落ち着いた厳粛な中で、はたちの式典が行われました。

続いて、第2部として、島田市出身の先輩の代表として、歌手のリージャさんと、三味線奏者のハレルヤさんに素敵な歌や三味線を披露していただきました。リージャさんは、島田第二中学校の出身で、テレビCMで聞いたことがある曲を歌ってくれました。歌手になるという夢を叶えた先輩です。ハレルヤさんは、初倉中学校の出身で、三味線の世界で有名な奏者であり、今年の三味線の大会では優勝という素晴らしい成果を出しています。まだまだ、島田出身で頑張っている夢を叶えた先輩たちがたくさんいます。今後、多くの人に来ていただけたらと考えています。

肘かけ椅子

「図書館の無料配布から」

教育委員 磯貝 隆啓

毎年、恒例の図書館の図書無料配布が行われています。昨年、私は金谷図書館からなんと50冊以上の図書をいただけてきました。もう20年くらい前の本ばかりですが、小説、心理学、政治、法律などの分野で、多くは今でも通用する内容のものです。毎年、ただでいただけるのが嬉しくて図書館に行っただけではいそいそともらってきています。配布当日は土日のため私は仕事でいけません。ただ、売れ残ったものが館内においてあり、その中からいただいています。売れ残りとはいえ、私には宝物の山です。今回、その中に平岩弓枝の作品が何冊かありました。ご存じの方も多と思いますが「御宿かわせみ」シリーズです。平岩弓枝のものは、今まで全く読んでいなかったのですが、何気なく読んでみるとこれが驚くほど面白い。維新直前の江戸を舞台に武士ではあるが宿屋の主となった主人公神林東吾と八丁堀の同心畝源三郎、岡っ引きの長助が次々に起こる事件を解決していく物語で与力の兄、神林通之進、宿屋の女主人るい、番頭の嘉助、従業員のお吉が彩を添えています。時代推理小説の組み立ても面白いのですが、人生の喜怒哀楽や当時の人々の階級や世相、江戸の地理、地名の由来などが詰まっております読み応え充分です。当時の江戸はお城から東、北方面の日本橋、神田、浅草が中心地であとは畑や森が広がっていたといわれています。蔵前という名は幕府の米蔵が並んでいたところから、麻布十番は河川工事の名残りだそうです。赤坂、六本木、麻布あたりは当時、武家屋敷と寂しい農地、新宿は川越街道の宿場町で宿屋が何件かあるだけだったようです。図書館からいただいたものはひと月ほどで読んでしまい、残りは図書館から借りてシリーズのすべてを読みました。無料配布でもらった本から素敵な出会いがあり、それが広がって幸せな読書の時間を持てたことに感謝しています。